

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572212678		
法人名	株式会社 松峰園		
事業所名	グループホーム 松峰園		
所在地	八峰町峰浜水沢字下カッチキ台41-58		
自己評価作成日	令和元年10月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	令和元年10月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年インターネットを利用して、動画を見る機会を作りました。利用者のリクエストに応じて動画を検索したり、利用者が何気なく呟いた言葉や、口ずさんだ歌詞を検索しています。動画が流れると、懐かしそうに見ている方や、歌を口ずさむ方もいます。踊りや体操の動画も利用して、身体を動かしています。  
外出については、遠出は難しいので近くに出掛けています。近くの道の駅で「令和」の大きなパネルを飾っていたので、写真撮影に行きました。  
職員の仕事を何も言わなくても手伝ってくれる利用者もいて、お互いに助け合いながら楽しく生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者個々のリズムや思いを大切に考え、生活歴に寄り添う姿勢を持ち、インターネットの利用などもうまく取り入れながら一日の暮らしの流れを形作っている。日々変化する利用者の状態について毎朝会議で話し合い、常にその時その時の利用者の状態に即したケアを行えるよう努力している。また、事業所の利用者が移動する動線上には伝い歩きにちょうど良い位置に家具が置かれ、利用者の安全で自由な動きを助けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の会議の時に、理念である「その人らしさを大切にしたい」生活が送れているか確認しています。「その人らしさ」を大切にしたい支援を心がけています。	毎朝の会議の中で理念の確認が行われている。日々のケアの提供に際し経験豊富なスタッフが理念を生かした取り組みを実践することで、経験の浅いスタッフにも指導しながら伝えるよう心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の方には、避難訓練に参加してもらっています。また、運営推進会議の委員になってもらっている方もいます。 子ども神輿は、毎年来てくれて交流があります。	新しい住宅地ということもあり、開設当初は近隣との交流も少なかったが、今は町内会にも加入しゴミ拾いなどにも参加している。近所の個人宅にもオープンガーデンに訪ねさせてもらったり、散歩の途中で坐りこんでいた利用者を助けて頂いたりしたこともある。事業所の存在を近隣に理解いただき良い関係が作れている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通して、地域の方の意見を聞いています。 認知症については、運営推進会議の中で伝えることはありますが、地域の方々に伝える、という所まではできていません。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎回ヒヤリハット報告と身体的拘束適正化委員会で話し合った結果を報告し、意見を頂いています。	運営推進会議では率直な意見交換がなされ、より良いケアの提供のために皆で意見を出し合い問題を共有し、解決策について話し合われていることが議事録より確認された。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町の担当者とは、連絡が取りやすい関係が築けています。八峰町介護支援専門員連絡協議会では、毎回事業所の状況報告を行っています。他事業所の情報も得ています。	福祉事務所・包括支援センター・役場それぞれと意見交換しながら運営を進めている。困難事例についても相談することができている。小さい地域なので役場も情報を提供すると事情の汲み取りが早く、適切な対応が得られている。これからも連携し良い協力体制を構築していきたいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束適正化委員会を設置し、定期的に話し合いと見直しを行っています。その結果を運営推進会議で報告しています。 玄関の施錠は、離園者がいるので行っています。1日に何度か開錠する時間を設けています。	同地域にある法人の複数の事業所で身体拘束適正化委員会を設置し、定期的に現状の確認と課題について話し合っている。いつも話題になる玄関の施錠については、漫然と施錠せず可能な時間帯は開錠し、記録もきちんと残すようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	パソコンの動画で学習できるシステム(メディパスアカデミー)を昨年から引き続き利用して、施設内で研修を行っています。 日々のケアについても話し合い、振り返りができるようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用中の方がいるので、職員は実際のやり取りを見て学ぶ機会があります。個々の必要性については、社協の担当者と話し合いながら、確認しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不安が残ったままの入所にならないように配慮しています。 在宅時の担当ケアマネが家族との間に入り、最終的な確認をしてから入所することが多くなっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見・要望は、普段の生活の中で汲み取り、可能な限り応えるようにしています。 家族の意見については、アンケートの取り組みを考えているものの、なかなか実施できずにいます。 面会に来られた家族からは、会話の中から真意を汲み取るようにしています。	利用者の気持ちや要望は、日々の交流や会話の中から汲み取っている。家族からアンケートを取る事については準備ができ実施する事となった。結果を受けてアンケートの内容も運営に生かしていきたいと考えている。	課題であったアンケートの実施に取り組むことができた。今後はその結果を十分に吟味し日々のケアに生かせるような取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の会議の時間に、意見や提案を聞いています。そこで出た意見は、管理者が代表者へ伝えていきます。 スタッフの体調や都合に合わせたシフト・勤務時間になるよう対応しています。	職員からの意見は朝の会議で出され、内容によっては管理者が代表者へ伝えていく。代表の出席が必要な時には前もって依頼して出て頂き直接意見を伝えることができている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業環境についての自己評価を毎年行っています。職員の就業環境に対する考え方について、代表者・管理者が同じ目線で理解できるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では、職員の意見を参考に様々な研修を行っています。事業所内では、メディパスアカデミーの動画を見て学ぶ機会があります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八峰町の介護支援専門員連絡協議会に参加し、地域の施設・在宅の状況について情報交換を行っています。 6月には、「権利擁護、成年後見制度について」、9月には地元の管理薬剤師の方の講義を聞く機会がありました。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に出来るだけ本人に会いに行くようにしています。入所前の様子を見ることで、入所後の生活になじめるよう配慮します。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は不安がないように対応しています。入所後も家族と連絡を取り、状況を報告します。面会に来られない家族には、写真を送って園での様子を伝えています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者はこれまでの人生を生き抜いてきた強さを持っていることを忘れず、出来ることは最大限に活かして生活できるように配慮しています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方にいる家族や、面会に来られない家族には、メールや手紙・写真を送って日々の様子を伝えています。毎週、電話をかけてくれる家族もいます。困った時は家族に相談し、意見を聞くこともあります。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りは、毎年見に行っていて、馴染みの人と交流できる場となっています。 普段は、利用者の自宅周辺など、ゆかりの地へドライブに行っています。	地域の伝統的な祭りに出かけたり、定期受診の帰りに地元のスーパーに立ち寄り買い物をするなどの機会を持ち、馴染みの方々との交流機会を持っている。事業所に知り合いが訪ねてくることもあり、自由に面会して頂いている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係や性格を把握し、職員間で共有しています。お互いに嫌な思いをすることのないよう、配慮しています。		
21		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	9月に退所して、一人暮らしをすることになった方がいました。本人は、直前まで行くことを拒否していましたが、包括や家族、次の担当ケアマネと話し合い、スムーズに退所へつなげることができました。引っ越しの手伝いや、退所後も様子を見に行き、すぐに関係を断ち切ることはしませんでした。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を表現できる方が少ないので、日常の会話や行動から真意を汲み取るようにしています。その情報を朝の会議で共有し、対応を統一できるようにしています。	長く入居していて次第に介助量が増えてきた方などは表情や動きを見て必要な援助が推察できている。利用者からの希望などは個人記録に残し、次の朝の会議で時間を置かずには共有し現場でのケアに生かすようにしている。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族から詳しく聞きます。在宅時の担当ケアマネとも連絡を取り、園での生活に馴染めるようにしています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録は1日1枚になっているので、1日の様子が把握しやすくなっています。1ヶ月表もあり、心身の状況の変化を確認しやすくしています。今年は、ホーム日誌でも全体の1日の流れが分かるようになりました。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態に変化があれば、その都度カンファレンスを行い、結果をケアプランに反映しています。日々の記録用紙にもケアの内容を記載し、ケアプランに添ったケアを行っているか確認しています。家族には、面会時に伝えています。面会に来られない家族には、手紙やメールで伝えています。	職員は全利用者に注意を払い、状態に変化があれば速やかに情報を共有し、ケアプランの見直しを行い日々のケアに反映させている。一日ごとの記録用紙の中に本人にとってポイントとなるケア内容が記載され、全員がプランを意識して関われるよう工夫されていることが確認された。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子で必要なことは、記録しています。変わったことがあれば、職員間で話し合いを行い、情報を共有しています。話し合いの内容は、記録して介護計画の見直し活かしています。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの店に買い物に出掛けたり、地元へドライブに行ったりしています。週に1回、町の移動図書館が来てくれます。地域とのつながりを感じ、安心して生活できるよう支援しています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、本人・家族の希望に応じています。かかりつけ医以外の受診が必要な時は、本人・家族と相談し、適切な医療を受けられるようにしています。	かかりつけ医は本人・家族が希望すれば自由に選ぶことができる。歯科往診車の定期的な訪問もあり、口腔ケアについての指導も受けることができる。薬局とも良い関係にあり必要時には相談することができます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の状態に変化があれば、看護職員に報告し、確認してもらいます。週に一度、訪問看護師が来ているので、利用者の報告をしています。対応の仕方についても相談しています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中もこまめに面会に行きます。入院中の経過も聞いています。退院時は状態の説明を受け、安心して退院後の生活に戻れるよう援助しています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを視野に入れた介護が必要だと判断した場合は、早い段階で家族と話し合いを行います。職員間でも話し合いを行い、看取りへ向けた援助について確認します。最期の時を家族と過ごせるよう、状態の確認をこまめに言い、家族と連絡を取り合います。	開設当初より看取りには取り組んでおり、週一回の訪問看護や、協力医との連携のもと、家族と連絡を取り合いながら援助している。訪問の前日にも事業所で最後を迎えた方がいらっしたとの事であった。日常のケアの延長線上に終末期や看取りを置き、気負うことなく取り組んでいる様子が見られた。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応(通報の練習、心臓マッサージ、AEDの使い方)については、年に一回必ず行っています。今年は、7月に消防署から人形を借りて、より具体的なAEDの使い方について学びました。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時、落ち着いて行動できるように、様々な災害を想定し具体的な避難訓練を行っています。玄関と非常口を施錠しているため、「開錠すること」を必ず訓練の流れの中に入れていきます。鍵は、職員全員が持っていて、玄関・非常口を同じ鍵で開けることができます。	避難訓練は近隣の方の参加も得て年2回以上実施し、数年に1回は避難場所まで実際に移動する訓練も行っている。立地環境から原野火災などが想定され消防署も頻回に来て、助言をしてくれる。玄関・非常口は施錠している時間帯もあり、意識して行動できるよう訓練を行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉掛けや対応は、その場に家族がいても不愉快にならない対応であるかを意識しています。自分がされて嫌なことはしない、という当たり前のことを忘れないよう話しています。居室入口には、防災の暖簾を付けて居室内が見えにくくするようにしています。	職員はお互いに気を付けて、利用者の尊厳を損ねない声掛けをしている。基本の自分がされて嫌なことはしない、言わないということが新しい職員も含めて全員に浸透するよう努めている。居室の入り口に目隠しのカーテンを付けたり、トイレ利用の時には外で待つ、入浴も一人で入れる方には状況を見守りながら一人で入って頂くなど少しでも本人が心地良く過ごせるよう皆で気を配っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を上手く表出できない利用者が多いので、本人の性格や普段の生活の様子を踏まえて対応しています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活は、それぞれの利用者に合わせています。食事・就寝・起床時間は、自由にしています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族に依頼されて、職員が利用者の服を買いに行く時は、本人に似合うものを選ぶよう工夫しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の好みに対応しています。主食が麺の日でもご飯を準備して、どちらか選べるようにしています。 行事の時は、弁当を作っています。 山菜の下ごしらえは、利用者と一緒にしています。 食事の時間が楽しみになるような献立を考えて提供しています。	席などにも配慮し、スタッフも同じ食卓に着き食事を楽しんでいる様子が訪問時にも見られた。メニューも利用者の嗜好に合わせて工夫している。できる方は包丁を握ってもらい準備にも参加している。一人ひとりの生活のリズムに合わせて食事の時間も考えており、利用者の状態に沿った援助が行われている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎朝の会議で、利用者の体調を確認しています。食事摂取量が少ない方がいれば、栄養補助食品や本人の好みのものを準備して対応します。水分摂取については、おいしく摂取できるように、お茶だけでなくスポーツ飲料や野菜ジュース、コーヒーなど利用者の好みに合わせたものを準備しています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、出来る方には状態に合わせた物品を用意し、口腔ケアを行っています。毎食後が難しい方には、1日1回は丁寧に口腔ケアを行うことを目標に対応しています。 義歯洗浄には、食器用洗剤を使うと良いと教えてもらい、実践しています。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿・便意がない方でも、利用者の行動を見てトイレ誘導のタイミングを判断しています。職員は、各利用者の排泄リズムを大体把握しているので、トイレで排泄できている方が多いです。	職員は利用者の素振りから援助のタイミングを読み取り、さりげなくトイレ誘導を行っている。夜間はポータブルトイレを置いている方もいるが、日中はほとんどの方がトイレを利用できている。下ばきも本人の状態や気持ちを考慮し、工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸内環境を整えるため、ほぼ全員がビフィズス菌粉末を服用しています。便秘しないことの重要性を職員は理解しているので、排便の有無は必ず確認しています。排便時は、プリストルスケールを用いて職員間で情報を共有しています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の状態に合わせて入浴日や時間を決めています。夜間の入浴は難しい状況ですが、夕食後に入浴することもあります。寝る前の時間帯に入浴すると、ゆっくり眠れているように思います。浴室には時計と温湿度計を設置し、熱中症や長湯に気を付けて介助しています。また浴室内には押しボタンがあり、介助が必要な時に、他の職員をその場を離れずに呼ぶことができます。	入浴の回数は本人の希望に沿って決めている。可能な時には夕食後の入浴も行っている。血行を良くするために入浴剤なども利用している。入浴方法も個々の意向に添って行われている。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体操などで身体を動かす時間を作っているため、夜は眠っている方が多いです。就寝時の居室の温度や明るさは、個人の好みに合わせています。温湿度計を確認し、快適に休めるようにしています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は、間違いのないように利用者の名前と服用時間を印字してもらっています。薬を渡す時は、利用者の名前と服用時間を読み上げて確認しています。薬の用法・用量については、説明書をいつでも確認できるようにしています。気になることがあれば、すぐに薬剤師に確認しています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の趣味に合わせて活動できるようにしています。(歌、踊り、塗り絵、読書・・・等々) 食べ物も好みのものを食べられるように配慮しています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	それぞれの希望に合わせて、近所の散歩・ドライブ・買い物などに出掛けています。家族とドライブに出かけている方もいます。	一人ひとりの希望に沿って戸外に出かける工夫をしている。定期受診の帰りにスーパーに立ち寄りしたり、近くの道の駅にみんなで出かけたいたりしている。また可能な方には自由に近隣の散歩なども行って頂いている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方が園で管理しています。必要な時に使えるよう援助しています。 自分で管理できる方は、本人に任せ、その状態を維持できるよう支援しています。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	園での様子を写真に撮り、定期的に家族に送っています。文字が書ける方には、手紙や宛名を書いてもらっています。 毎週、遠方の家族から電話が来る方もいます。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室・ホール・脱衣場に温湿度計を設置し、快適な状態を確認しています。 ホールには果物や野菜、花を飾って季節感を採り入れています。 玄関・廊下にベンチや椅子を置いて自由に休めるようにしています。	皆で過ごすホールには、季節の野菜などが置かれ会話の材料としても活用され笑顔を生み出している。玄関や廊下に置かれた椅子でゆっくりくつろぐことができる。また、利用者の動線を考え家具の配置を工夫しており、動きやすく、くつろげる空間となっている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファを多めに設置しています。気の合った利用者同士で座って会話を楽しんだり、一人で昼寝をしたり、それぞれ好きなように過ごしています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に合わせて、自宅で使っていた家具を置くことが出来ます。利用者の居室での動線を考え、家具の配置を工夫しています。 各居室に、ソファを設置しています。テレビを置いている方も多く、居室で好きな番組をゆっくり見えています。	家具は自由に持ち込むことができるが、事業所で備え付けている棚もあり、持ち込むことができない方の場合にも室内が殺風景にならず、一人ひとりの個性的な空間が作られている。居室の中もソファや棚などを工夫し安全に移動できるような配慮がされている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所が分からなくなる方のために、居室の入り口には、目印になる物を付けています。トイレの場所も分かりやすくなるようにしています。 各居室前には、コルクボードを設置して、本人の写真や作品を飾っています。		